

今回の「名言巡礼」で取り上げた「雪おんな」に関する評論は、これまでに数え切れないほど発表されてきたが、近年の出版物では成城大教授、牧野陽子さんの「〈時〉をつなぐ言葉」（新曜社）が実に参考になった。

雪女の温情で命を助けられた若い木こり。雪女との約束と、美し

い妻と10人の子供に恵まれる幸せな生活は、過去と現在の微妙なバランスの上に成り立っていた。しかし、約束を破り、雪女との出来事を話してしまったために過去と現在が混じり合ってしまう、幸せが崩壊する。ハーンの、過去という時間の処理の手際良さが光る。

また、「読後に残る悲しみの余

韻は、記憶の持つ悲哀にほかならず、人間の魂の深みをゆさぶる」と牧野さんは指摘する。「説話という素朴な形を取りながらも、そこに人間の生にかかわるような根源的な意味が隠されていることが本作の魅力だ」という牧野さんの説を聞き、ハーンの商品の素晴らしさを再認識した。（條）